

# 北海道合鴨水稲会 水かき通信

## 北海道合鴨水稲会 第4回圃場見学会報告

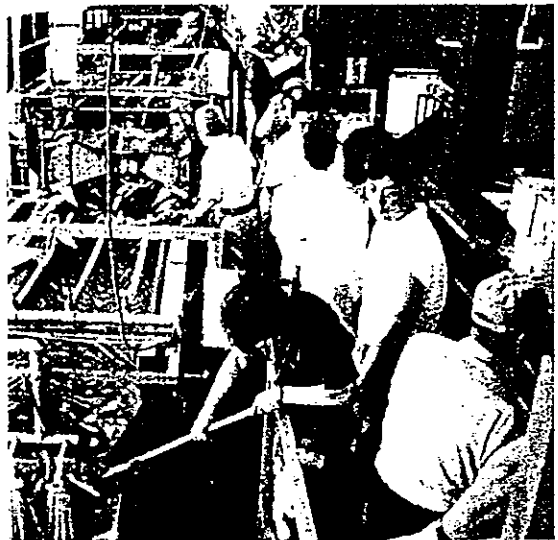
事務局 宮入 隆

天候にも恵まれ、夏らしい暑さのなか、昨年の7月12・13日に第4回圃場見学会が行われました。見学場所は七飯町の築城さんの圃場のほかに、JAななえ農産センター、そして2日目には宿泊場所の「ネイバル森」の近くの木炭の窯を見学しました。合鴨水稲農家の参加は3人だけでしたが、いつもより学生の参加が多く、農業新聞社から山口さんも参加していただき、20人ほどの参加人数となりました。

運悪く、集合場所の昆布館の手前で参加者が2人もスピード違反で捕まってしまうなど、14時ちょうどに全員が集合することができませんでしたが、最初の見学場所であるJAななえ農産センターでみんな集まることができました。

JAななえ農産センターでは、花卉とニンジンの選荷施設を見学してもらいましたが、この選荷場は近年建てられたものであり、設備の整った、近代的な施設でした。花卉の選荷場はカーネーションの共選

出荷が中心で、10億円の販売額の中の7割を占めているとのことでした。当初は10万本を取扱規模とした施設だったそうですが、ピーク時は25~26万本と大幅に取扱量が増えており、私たちが見学させてもらった時もちょうどカーネーションを束ねて箱詰め作業をしているところで、大変忙しそうなお様子でした。去年は長野と出荷



時期が重なってしまい、平年より価格が低くて厳しい状況だということでした。ニンジンの選荷場は選別以外はほとんど人の手

を使わない近代的施設となっており、有名なマリーゴールド栽培（防除用）でも分かるように、ニンジンに力を入れているのが感じられました。

次に圃場見学会のメインである築城さんの圃場を見学させてもらいました。2町4反の水田のうち、合鴨農法を行っているのは5.2反で、お米の銘柄はさらさら397、ゆきひかり、巴まさりの3種類だそうです。築城さんは、合鴨水稻を始められてから昨年で3年目ということが、雑草もほとんど見られることのない、手入れの行き届いた圃場でした。初めて水田で合鴨の泳いでいるのを見た学生も、大変感激している様子で、築城さんのお話を熱心に聞いていました。今年100羽の合鴨を仕入れたそうですが、寒さで圃場に放すまでに80羽になってしまったそうです。6月15日に水田にヒナを放し、そのときは40羽が元気に泳ぎまわっていました。築城さんのところでの合鴨の主な天敵はカラスであり、テグスを張る量が少なかったことを反省として上げておられました。また後から、捕まえたカラスを吊すのが効果をあげたそう



で、それからは被害が少なくなったということです。側面には電柵を張っていましたが、キツネなどの被害はないそうで、間隔はやや広く、ヒナの時に逃げ出さないように、水面に触れるぐらいの高さまで張るようにはしていました。合鴨への餌やりは、2・3日に一度くず米をやっており、しつけるために時間を決めて食べさせているということでした。合鴨の処理については、何羽かを近所のほしいという方に分けているそうです。



築城さんのところでは水田の他にも、2町6反の畑で大根やニンジンなどの野菜を有機栽培で作っていたり、鶏を平飼いで250羽ほど飼育しており、そちらの方も見学させていただきました。鶏小屋のなかには元気な鶏たちに混ざって、ウサギたちもたくさんおり、驚いてしまいましたが、そのウサギのあまりの可愛らしさに貰っていく人もいました。ウサギを飼い始めたきっかけは、奥さんが好きだったからだそうです。今では50羽以上にも増えているそうです。築城さんの家には池もあり、そこに

アヒルと一緒に昨年圃場に放していた合鴨も泳いでいました。このような様子からも築城さんが合鴨水稻はもちろん、農業を楽しんでやっておられることが感じられました。



宿泊場所の「ネイバル森」は、駒ヶ岳を望む緑豊かな気持ちの良い場所でした。恒例の宴会も充実した見学会を反映してか、みなさん話はずんでいたようでした。そのなかで、川本さんから全国大会の開催についての話題が持ち上がりました。内容は「近い将来、北海道で全国大会が開催できるのか」ということでしたが、できないという意見は出ず、概ね開催しようという意見でした。開催地の候補地は上がったりましたが、どのような方向性で開催しようという話までにはいきませんでした。このときの結論としては、すぐには開催することはできないが、開催する方向で進めていこう。また、もし開催することになったら、会員全員が実行委員会という形でやっていたら、なかなか難しい。という話になりました。

2日目に入り、昨日同様天気も良く、

「ネイバル森」から近いということで、歩いて見学場所の木炭を作っている窯まで行くということになりました。見学させてもらった山上さんのところには大きな窯が4つあり、そこで1年計96回炭を焼いておられるそうです。駒ヶ岳周辺の地域は炭作りに適しているそうです。理由として、土地が乾燥していて暗渠を作る必要もなく、良質の炭が作れること。窯をつくる粘土が、火山が爆発した時にできたもので、軽石が多く含まれていて、軽いし割れにくいということ上げていました。木酢や畑にまく炭も販売しているそうです。



窯を見学した後、「ネイバル森」でこの見学会は解散になりました。今回の見学会は圃場見学の他にも、直接合鴨水稻に関係のない場所も見学することで、七飯町の農業全体を広く見ることもことができました。参加者の幅も広がって、直接農業を見る機会の少ない者にとっては、合鴨水稻会を通して農業にふれる良い機会になったと思います。また参加者同士の情報交換の場としても、夏の圃場見学会は有効な場であると思いますので、来年も是非行いましょう。

## 美鈴の薩摩鴨観察日記

折坂 美鈴

こうやってしまっは、身も蓋もないけれど、薩摩鴨は、まったくかわい気のない鴨です。試験場に向いて、孵化直後の初対面を果たしたのに、刷り込みの性質は、この鴨には疑わしく、後から来た高橋さんの鴨の方が私達によくつき、実にかわいいヒヨコたちでありました。

少人数(?)であったせいカモ、団結力は人(?)一倍強く、水田に放してから、(25aに18羽入れました)一羽たりともはぐれることなくえさをついで、いばみ、条間を団体で移動します。警戒心が強く、作動などを、人が通るたびにザザッと大きな音を立てて、いっせいに逃げるので、ようやく活着し始めた幼苗をつぶされやしないかと、ヒヤヒヤしたものでした。

毎日、エサをやる主人にさえ、エサ用バケツを持っていないと寄ってきません。田んぼの中をついて回ることは、とうとう最後までありませんでした。

予想通り、日毎に大きくなる薩摩鴨ですが、肝心の仕事の能力には、及第点をあげましょう。体が大きい分、中耕効果は、期待を裏切ることなく、大きな水かきで、土中をかき回し、雑草の根付きをおさえてくれました。大きいだけに、食欲も旺盛で、ドロオイの被害も少なくなりました。

稲が成長して、鴨の体が隠れるようになった頃、時折、稲の間から、長い首をヌツと伸ばして、あたりを伺う様子は、なんともユーモラス。見学者には、うけること間違いありません。

水田からあげてからも、エサ場を独占しているようで、小さな鴨は、別棟に囲ってやらないと、エサが皆にあたらないのです。寒くなると、小さい鴨圧死事件も起きて、犯人は薩摩鴨ではないかと、にらんでいます。

飼主には、ちょっと扱いにくい鴨ですが、首長短足、床につきそうな大きなお腹は、いかにも、脂がのっておいしそう。養鶏のプロ沢崎さんをも、「来年は全部薩摩鴨にしる。」と言わしめた魅力的な裸体でありました。視点を換えれば、情に流されることなく、製品(食肉)として、見つめることのできる、価値のある鴨と、言えるのではないのでしょうか。

余談になりますが、私は、今年初めて、鴨の解体を、ほんの少し、お手伝いさせて頂き、私達の為に、働いてくれた鴨達の命を頂くことに、感謝の念を、改たに致しました。鴨さん達、ありがとう。その一言につきます。

編集部注) 2種類の合鴨の大きさの違いを比べて下さい



## 危機に立つ「有機米」の町、そして合鴨水稲会の行方

北海道合鴨水稲会顧問

北海道大学農学部教授 三島徳三

札幌市中心部から車で2時間半、ひまわりと有機農業の町として有名な北竜町は北海道の穀倉・空知の北部にある。1988年に農協青年部を中心に始まった有機無除草米の栽培は、国が導入した特別栽培米のルートにも乗って大きく広がった。農協が「有機栽培米」と呼ぶのは、有機肥料(要素量50%以上)を使用し、除草剤10a当たり1~3kg、防除は予察により必要最小限、という条件を満たす米である。このほかに自然農法米(無除草剤、無防除)、有機無除草剤米など、特殊栽培された米が、北竜米のライン・アップを飾り、1995年からほぼ全面積がこれらの「有機米」によって占められるようになった。

北竜の稲作作付規模は北海道では平均的である。大規模化を指向するのではなく、有機米で付加価値をつけ、転作田にはメロンやスイカなどの集約作物を栽培し、総合所得を高めようとするのが、JA北竜の戦略であった。

その北竜町と私のつきあいは古い。同町における自然農法米の草分けである黄倉良二さんの長男が北大の私の講座で卒論を書き、卒業したのが機縁である。その黄倉さんは、いまや組合長としてJA北竜を引っ張るだけでなく、「天と地と水、そして農民の魂」のスローガンを声高く叫びつつ、北海道いや日本の農業を守る先頭に立っている。

昨年12月、私たち北大農学部農業市場学講座では、学生20名と共に、北竜町の農家調査を行った。だが、いつも元気な黄倉組合長も農家のみなさんも、今回は元気がない。

その理由は明らかだ。前年度にくらべ60kg当たり2,700円にも及ぶ手取り米価の低落。夏と収穫期の天候不順による収量低下と下位等級米の増加。これらの自然的・社会的な変動が、北竜町の農家に対しても、大型台風なみの「被害」を与えたのだ。

北竜町の稲作農家の平均稲作付面積は6.8haで平均反収は9俵。1俵2,700円の価格低下は平均的農家で165万円の減収となる。これに収量減と1等米比率の減少、さらにはクズ米価格の低下が加われば、平均的農家でも200万円を超える減収になる場合がある。我々の調査した農家は比較的規模の大きい農家であったため、前年対比の減収が200万円、300万円を超えた農家が少なくなかった。「今年は生活を切り詰めれば何とかなるが、来年もこの状態（価格低下）が続けば離農だね。しかし、農協に借金を抱えていて離農させてくれるかな。」……………ある農家は寂しく語った。

全町あげて有機米と複合経営に意欲的に取り組んできた北竜町でさえ、市場原理農政には為すすべがない。

ところで、こうした米をめぐる大状況に、アイガモ水稲同時作農家といえども無縁でないはずだ。

北海道米の新エースとして消費者の評価の高い「ほしのゆめ」でさえ、いまやスーパーでは10kg3,300円で売られている時代

だ。消費者をめぐる社会経済状況も厳しい。北海道拓殖銀行の倒産は、中小企業の資金繰りを悪化させ、年末のボーナスにも影響を与えた。倒産や廃業により、長年の勤め先を突如、解雇された者は拓銀だけではない。

こうした厳しい経済状況の中で、消費者が「安い米」を求めて動くのは当然のことだ。「安全」とか「おいしさ」に理解を示し、それをコンセプトに購買活動を行うのは、ある程度経済的にゆとりのある層に限られる。しかし、不況の強まりは、こうした層を絶対的に少なくしていく。

こうした稲作農家と消費者のおかれた大状況を理解し、彼らとどう提携するのか。北海道合鴨水稲会の最大の課題がここにある。

アイガモ稲作同時作は自然生態系に順応し、稲とアイガモとの共生、循環永続的農法の極限を目指している。それは技術の世界だ。だが、農家同士、および農家と消費者の共生は社会的な運動の結果生まれる。その両者の結び付きを求めた北海道合鴨水稲会の前進を温かく見守りたい。

農業を始めたいあなたにこんな資金があります！ 【連載第3回】

高橋義雄

日本の経済は、戦後最大と言っているほどの転換期を迎えています。まるでいままでの経済システムの弱点が、国際化という波に飲み込まれてしまいそうな勢いです。しかし、何でもかんでも国際化という物差しで押し量ることが良いのか疑問があります。そして、総てを市場原理にまかせるというシステムも疑問を感じます。特に農業の国際化は、それぞれの国によって地価や労賃の違いがありますし、為替レートにも大きく影響されます。さらにまた、気候風土にも大きく左右されます。しかし、どこの国でも農業は暮らしや生活を守る上で何物にも代え難い産業として存在してきました。そして、そこからその国の固有の文化が育まれてきました。このところ農業をやむなく辞める人がいる傍ら、新しく農業を始めたいという人もでてきています。そんな人達のために支援する資金がありますのでここに紹介します。

- <就農支援資金について>
- Q 将来農業をやりたいのですが何か良い資金がありませんか？
- A 表をご覧ください。第一に就農準備資金、第二に就農研修資金とがあります。この資金を借り受けるには「認定就農者」であることと、農家や農業大学校などの研修を終えてから、おおむね1年以内に就農することが条件となります。
- Q この資金は、誰でも借りられますか？
- A 18才以上46才未満で知事による就農計画の認定を受けた者が対象者となります。
- Q この資金の利点は何ですか？
- A ①20年の長期償還の無利子融資で、研修終了後、新たに資本装備して5年間就農した場合は、最高300万までの返済が免除されます。
- ②保証人は両親などの非農業者でかまわない
- ③夫婦でそれぞれ就農計画を立てる場合は、それぞれ資金を借りることができます。(計画によっては月々2人で30万円まで借りられます)
- 詳しくは：問い合わせ先  
北海道農業担い手育成センター  
〒060 札幌市中央区北1条西7丁目1番地  
プレスト1・7ビル 3階  
電話 011-271-2255  
FAX 011-271-2266

就農支援資金の概要

資金の種類	資金の種目	研修先	貸付限度額	貸付対象期間等	貸付対象経費	貸付利率	償還期間(うち返済)
就農研修資金	教育研修	農業大学校等	1ヵ月 5万円以内	4年以内の 研修期間	農業技術を習得するための実証的な研修を受けるのに必要な経費(学費教材費、研修費、旅費、渡航費等)	無利子	20年以内 (9年以内)
	農家研修	国内の先進農家等	1ヵ月 15万円以内				
	海外研修	海外の先進農家等					
就農準備資金	就農準備		150万円以内	1回限り	就農先の調査、住居の移転等就農準備に必要な経費(就農先調査、旅費、滞在費、移転費等)		

-6- 24 x 12 x 4  
96  
18  
1769  
1728

## 事務局より

### 第4回総会及びフォーラムのお知らせ

2月1日、2日に第4回総会及びフォーラムを、旭川市サン・アザレア（旭川市5条通4丁目）にて開催します。今回は「合鴨で考えた暮らしと命」をテーマに、農業関係者だけでなく、ひろく一般の市民を交えた議論をしたいと考えています。会員外の方の参加を、おおいに歓迎いたします。

### 第8回全国合鴨フォーラムのお知らせ

2月6日、7日に岡山市で全国合鴨フォーラム岡山大会が開かれます。

日時：6日（金）午後1時～

7日（土）午後12時30分～

場所：岡山プラザホテル

TEL086-272-1201

参加費：お一人様3,200円

（懇親会等は別途費用がかかります）

### 全国フォーラムの北海道での開催についての議論

全国合鴨水稲会の萬田代表世話人から、岡山大会の次の開催を北海道合鴨水稲会で受けてほしいとの提案がありました。これを受けて、昨年11月に行われた当会の世話人会で、次のような意見が出されました。道内の生産者の結集など、足下を固め

る時間が必要であること。開催するかどうかは、総会での決定が必要であること。同時作についての、技術志向と哲学的思考の共感部分をどのようにするか、話し合う必要があること。そう考えると、岡山大会の次は不可能であり、早くてもその次くらいが妥当ではないか。などの意見が出されました。今後、総会などで話し合いを進めていく予定です。

### ○ 北海道合鴨水稲会入会案内

当会の主な活動は、総会及び研修会、圃場見学会、『水かき通信』の発行、全国合鴨フォーラムへの会員派遣等です。入会されますと、行事の案内状、『水かき通信』が届きます。入会は、年会費6,000円を納入すればできます。

### ○ 会費納入のお願い

98年度の会費6,000円を、2月末までに以下の郵便振替口座に振り込んでください。同封した郵便振替払込書を使われますと、手数料はかかりません。

口座番号：02700-3-38241

加入者名：北海道合鴨水稲会

払込払出局：札幌北七条郵便局

## 編集後記

昨年は、薩摩鴨と合鴨を貰ってきて、加工方法の勉強も兼ねて、酒井さんや大窪くんたちと40羽ぐらい屠殺しました。やっぱり問題は毛抜きですが、うまくいきません。なんかいい方法ないのかなあ。

実家（長野）の近所にも合鴨水稲をやっている農家の方がいるということを知り、お話を聞いてきました。自家孵卵させて、毎年300羽水田に放しているそうです。

編集作業がこんなに大変だとは思っていませんでした。（宮入）

北海道合鴨水稲会 水かき通信 第5号

1998年1月23日発行

発行：北海道合鴨水稲会

発行所：北海道合鴨水稲会事務局

〒060 札幌市北区北9条西9丁目

北海道大学農学部

農業経済学科農業市場学講座

宮入 隆・横松心平

tel:011-706-4941

fax:011-736-8633